



Design & philosophy

New year, New age, New history.

新しい年、新しい時代、新しい歴史。
新しい生活のデザインは生活の見直しから始まる。
未曾有の大不況は、大きな変化の前兆と見ることができる。
全ての価値観の再考と未来に向かっての夢を持ち続けること。

Looking for Urban Utopia - Urbabia を求めて。

都市には危険が在るが、都市に希望を求めよう。
街の中の農的生活、都市を守る森、泉、緑の生活。
暖かい心、美しい姿、きれいな生活。

Smart media for Public wisdom.

力と権力には平和をもたらすことはできない。
賢明なメディアの創出は人類に英知をもたらす。
深く考えて、思慮深い行動こそが新しい歴史を作る。

We have a dream, We can hope for the future.

人々は夢を持ち続ける。希望が平等に持てる為には自己の努力と
健全な社会が必要だ。そして僕らにできる小さなこと。

Then we do the best we can do for life.



「もしも。あ、ごめん。今、会議中で。あ! でも全然大丈夫だよ。
いや、なんかアメリカに行ってきたからその報告会的な。
うん。うん。ほら、オバマが新しいアメリカの大統領になったでしょ?
その突撃ライブ中継をするって目的だったんだ。
新しくWE-TV っていうメディアを皆で作ったからそのファーストコンテンツとして。
うんうん。いやいや、ファースト。英語の1って意味ね。そうそう。
We are the televisions. っていうテーマのもと
誰のためにも開かれた、広告主導でなく、コンテンツ主導のメディアが
WE-TV ってわけ。まあ、電話だと説明が難しいから
今晚食事でもどう? 都合悪い? そうか、じゃあ来週は? ダメ?
あ、じゃあ来月以降どこでもいいよ! え、ダメ? 当分都合つかないって!？」

Mat.





Go Hard

行くしかない!今年も走り抜けます!!
原宿で全身タイトでHung Upを熱唱してるヤツを見かけたら
それは僕たちです。

Cultivate Hard

雨ニモ負ケズ 風ニモ負ケズ
雪ニモ夏ノ暑サニモマケズ
欲バリデ失敗バカリ デモイツモシナトワラッチ耕ス
サウイグフウニワダシハナリタイ



Design Hard



Travel Hard

今年の僕のテーマはTRAVEL。世界は今まで経験したことのない
ようなハリケーンに飲まれかかっている。こんな状況だからこそ、自
分の五感をフルにつかって今、世界で何が起きているのかを体感
したい。特に、「新しい働きかた」や「自分にとって興味をそそられる
もの」といったことをどん欲に掘り下げていきたい。これからもたらさ
れるであろう、大きな「変化」の先に何があるのか。台風一過のすば
らしい世界が見えることを信じて、世界をまわる。

Kick Hard



Watch Hard

匿名希望31歳。どこからどこまでが
視姦になるのか。モーセの十戒「汝、
姦淫するなかれ (Thou shalt not
commit adultery)」という言葉に、
異常に興奮してしまったミッション
スクールの中学時代。穴が空くほど見
ると言いますが、私の最近のお気に
入りは、レンズに無数の小さな穴が空
いたサングラス。ピンホール効果とい
うやつで、近視の人も遠視の人もい
つもあり、いろいろよく見える。



Edit Hard

編集ってなんだ？ 今年も悩むんだろうなあ。
嫌いじゃないけどね。むしろ好き。

Listen Hard



Shoot Hard

射抜く、蹴り抜く、撮り抜く、撃ち抜く。
Hardが加わることで貫き通す。
今年の目標は「貫く」。

Drink Hard

匿名希望20歳。酒で失敗した男の話。東京に来て初めて行ってみたクラブ。かわいい女の子がたくさんいる。勝手が分からず、とりあえず缶ビールをカウンターで注文し、DJブースから一番離れた壁になんとなく寄りかかる。轟音の中、楽しそうに互いの耳元で大声で囁き合う男女。今晚何か起こらないかなあという淡い期待は、爽やかな朝日とともに消えてなくなった。酒を飲む時は、激しく飲んだ方がよい。



Pray Hard

Pray mountain

text：清田直博 (Media Surf Communications Inc.)

人は自然の中に身を置くと、心も身体も清められる気分になるものだ。そんな清らかな山を神として信仰する文化が日本には古くからある。

東京にも古くから民衆の信仰を集めている山がある、高尾山。最近ではミシュランの三つ星観光地に認定されたり、ナイキのトレッキングシューズ「ナイキタカオ」が生まれるきっかけとなった場所だったり、東京都民には何かとおなじみの観光地だが、古来から続く山岳信仰の霊山でもある。また、歴代の高尾山の統治者は樹木の伐採を厳しく禁じて森林を保護したため、いまでも天然の森林の姿が保たれている貴重な山なのだ。

京王線の高尾山口を下車し、高尾登山電鉄のゲートルカーリフトに乗って中腹まで登る。そこからさらに山道を歩く事30分、修験道の道場と真言宗の本山という二つの顔を持つ寺院、高尾山薬王院に辿り着く。高尾山薬王院は正式名称を「高尾山薬王院有喜寺」と呼び、「成田山新勝寺」「川崎大師平間寺」と並ぶ真言宗智山派の三大本山の一つ。しかし他の二つの寺院と大きく違うのは僧侶が山伏の格好をしているところ。山門の脇には仏教神ではなく二対の天狗神の像を拝める。仏教伝来以前より続く山岳信仰と真言密教が結びつき、修験道の天狗神と飯縄大権現と呼ばれる不動明王の二種類の神を祭る。

この薬王院で毎年お正月に行われる、新春大御護摩修行という儀式に参加した。護摩修行とは真言密教の儀式の一つで、本堂内にある護摩壇上で護摩木と呼ばれる薪を焚き参拝者の煩惱を払う儀式。この日の御護摩修行に参加した参拝者は100名程度。スーツ姿の会社役員や、リュックを背負ったハイキングのおばさんなどの姿が目につく。護摩壇の周囲に張り巡らされた柵を取り囲み、じっと座って僧侶達の登場を待つ。数分後、和太鼓が打ち鳴らされると堂内が一気に静まり返り、どこからともなく法螺貝

の音が流れてくる。すると廊下の奥から法螺貝を吹きながら、小さな頭巾(と きん)と呼ばれる帽子を前頭部に載せた、総勢10名ほどの僧侶達が入場。法螺貝の音が止むと読経が始まり、貫首(最上位の僧侶)がうやうやしく登場。壇の前に座って蓮の形をした金の器に盛られた種々の秘薬を調合し、火を焚く。炎は不動明王の智慧を象徴し、薪は我々の煩惱を表すそうだ。炎がメラメラと燃え盛り、鳴り響く僧侶達の読経は空間のテンションをどんどん上げていく。そして参加者の御祈願が書かれた護摩札を燃え上がる炎に次々とあぶると、儀式はそのクライマックスを迎える。煩惱を焼き尽くすこと約20分、無事に儀式は終了。

土着の信仰も外来の宗教も一緒に混ぜ込むおらかさ。炎のパフォーマンスをありがたく拝みながら、平和な日本を感じる高尾山のお正月であった。



神社や寺院の門でよく見かける名前の入ったシール。このシールは千社札と呼ばれ江戸時代から流行中。子供の頃、たんすや冷蔵庫に貼りまくったビックリマンシールをふと思い出しました。昔から日本人はシール好きなんですね。

お伊勢へ参る。

text：ToM. (TOKYO DESIGN FLOW)



日本の総氏神とされる天照大御神が祀られている伊勢神宮へ参拝しに行ってきた。一月十一日、この日は一が三つ重なるこの日は一年で大切な区切りの日でもあり、伊勢市の伊勢神宮内宮、外宮をはじめ、伊勢神宮の別宮や摂社、末社など計125社の神々が一堂に会して酒や舞を楽しむとされる「一月十一日御饗(みけ)」が行われていた。その為か、当日内宮の参道には約1000人近い人々で溢れかえっていた。

私は20歳の時にたまたま訪れた伊勢神宮内の神聖な空気に触れてから5年経つ今に至るまで年に2回〜3回の頻度でこの地を訪れている。何故だろうか？ 自分でも分からないが、一つだけ言えることは理屈では語り得ないモノがそこにあるということだ。境内の杉大木からは太古から脈々と続く生命の呼吸が感じられ、驕り昂る現代人を静かに諭してくれる様な感覚を覚え、自然への畏敬を深く感じるのである。

そしてこの場所に来る度に、日出ずる国に生まれたことを感謝し、そして、私の家族、親友、今までお世話になった人々、そして今を共に動かしているクルー達と出会えたことが改めて奇跡の様に感じるのである。太陽に見守られながら今年は謙虚に爆走していきたいと思う。そこそこヨロシク！ 生かして頂きありがとうございます。



Domestic Foreigner's Eye

一人の作家 一つの現象 One Artist - One Phenomenon

The “Phenomenal Artist” is the one whose work presents a fact or an event of nature or society, which is not fully understood. Thus, the “phenomenal artist” acts as a trigger for controversial opinions, arguments, criticism and hatred as well as for unlimited admiration, love and cult. Artists of this sort are “question-starters”: they problematize (tradition, common sense, ideals) and bring various doubts into conventional art scene. As a result, the art of the “phenomenal artist” and its discussion unfolds in disciplinary fields of both Humanitarian and Precise sciences: from Art History to Anatomy, from Mathematics to Psychoanalysis, from Anthropology to Criminology and so on.

The monthly bilingual publications under rubric “One artist – One Phenomenon” each time discuss one artist, which presents one phenomenon in the field of his or her creativity. We will start with, probably, the most important and the most general topic: The Inner World of the Artist.

Rodion Trofimchenko

「現象的な作家」（それは「驚くべき作家」と「現象のような作家」）とは、自然または社会において、まだ完全に理解されていない事実や出来事を発表する作家である。それによって、「現象的な作家」は、論争的意見、議論、批評と憎悪、それと同時に、無限の感嘆、愛と崇拜のきっかけとして存在している。このタイプの作家は「問いを出発させる者」である。つまり、伝統、常識、理想を問題化し、平凡なアート・シーンに様々な疑問を持っていく者である。結果としては、「現象的な作家」の芸術と彼の作品をめぐる議論は、人文学と科学両方の領域で展開している。つまり、美術史から解剖学へ、数学から精神分析学へ、人類学から犯罪学へなど。

「一人の作家 一つの現象」という見出しで報じられる毎月の二ヶ国語の発行は毎回、創造の領域で一つの現象を発表している作家を討議する。おそらく一番大事なテーマそして一番広いトピックから始めよう。つまり、作家の内的な世界への眼差しである。

ロディオン・トロフィムチェンコ

The Inner World of Artist Maria Volokhova マリア・ヴォロホヴァという作家の内的な世界

When the artist Maria Volokhova said to me that she is “interested in the inner world of a human being”, I’ve got slightly suspicious: there were a smell of banality and a risk of shallow spiritualism in this common phrase. After five minutes of conversation Volokhova’s interest in “human’s inner world” turned to be her artistic research of brain-nerves design, stomach’s volume, blood circulation system’s patterns and adipose tissues transparent qualities. Thus, it became clear that Volokhova understands “Inner World” in a very direct sense and for me literal perception of roundabout phrases is one of the sign of radical artists (as well as of stubborn children and straightforward punks): they don’t understand why “A reach man’s joke is always funny” and see animal abuse in “hit two rabbits with one shot”. Direct approach to commonly “metaphorized” topics of human nature, paradoxically, makes presentation of spiritual values more indirect, as well as more revealing and interesting. Volokhova’s sauce-boats in shape of fetus and ashttrays with nerve-knot design and fatty-pellicle-tactility undoubtedly raise topics of human body perception and aesthetics of “anatomical” uncanny.

In the beginning of this year Volokhova holds several exhibitions in Tokyo where she presents part of her long lasting project “Dolci Lacrime” (Sweet Tears): a collection of objects in shape that recalls body organs collected in a room that eventually turns in an interior of a huge beast or a giant. This time Volokhova presents “Jejunum Teapots”, porcelain teapots in shape of long interwoven and interpenetrative intestines.

The topological aspect of the human body and its representation is the first that comes in mind when reflecting on the intestines-like-pot. First, this work sharpens pre-modern perception of “a body, which is a sack with a lot of smaller sacks inside of it”. Intestines are the thing, which is inside (a body), but still have its own insides, what makes possible for exteriorized intestines still act as a container, a pot. From another hand, the persistent containing feature of intestines is in paradoxical union with their vast surface area (due to their function of absorbing nutrient substances from digested food). The Container, the Surface and the Interlacing are all come in one here.

Another peculiarity of this work is in its strong object-like nature. By serving tea with this pot one is holding “intestines/jejunum” in his/her hands. The thing that is supposed to be hidden and integral with the “whole body” is here in my hands as something revealed, independent and brought to light.

In spite of the fact that Volokhova shapes a “kitchen utensils” she is not a craftsman, nor a designer. Being interested in printmaking originally, she decided to study porcelain making to be able to express fragility of inner organs both in the visual and tactile dimensions. If porcelain in its basics is treated as something delicate, than it is suitable material to intensify fragility

マリア・ヴォロホヴァという作家が「人間の内的な世界に興味を持つ」と言った時に、私は疑いを持ってしまった。つまり、この表現に平凡臭さと浅はかな精神主義を感じた。しかし、五分話したら、

ヴォロホヴァの「人間の内的な世界」への関心とは、脳の神経のデザイン、胃のボリューム、血流制度のパターン、脂肪組織の透明性の特徴の創造的な探究であると分かった。したがって、ヴォロホヴァは「内的な世界」を非常にダイレクトに意識している。言い回しを直接理解するのは、ラディカルな作家（それと頑固な子供とまっすぐなバンク）である一つのしるしである。逆説だが、普段「比喩化」された人間の性格のトピックに対する直接のアプローチは、精神の価値の表現をもっと不直接的にさせ、もっと明らかかつ面白くさせる。このように、ヴォロホヴァの胎児の形を持つソース皿、または神経節のデザインと胃の脂肪の薄皮の触感性を持つ灰皿は、実際に人間の身体の知覚と「解剖学的な」不気味さの美学というトピックを出している。

2009年の初めにヴォロホヴァは、東京で行われる幾つかの展覧会に参加し、「Dolci Lacrime」（「甘い涙」）という長期プロジェクトの一部を発表する。つまり、内蔵の形をとった対象を制作し、一つの部屋で集め、この部屋を化け物または巨人の内的な世界として展示するという目的である。今回、ヴォロホヴァは「空腸のティーポット」を提案する。それは、織り合わされた腸の形を持つ磁器製のティーポットである。

腸のようなポットについて考えたら、最初に頭で浮かんでくるのは、人間の身体のトポロジーの特徴と彼らの表現である。第一に、この作品は近代以前の身体を理解、つまり「多数の袋（内臓）が一つの袋（皮膚）に入っているものとしての身体」を思い出す。腸は（身体の）中身だが、それと同時に自分の中身を持つ物である。よって、摘出された腸の入れ物（ポット）の機能を持ちうる。他方、腸の容器性は、（食物から栄養を吸い込むという機能による）腸の大きい平面性と矛盾的な総合を持つ。この場合において、容器性、平面性と織り合わせは一体になる。

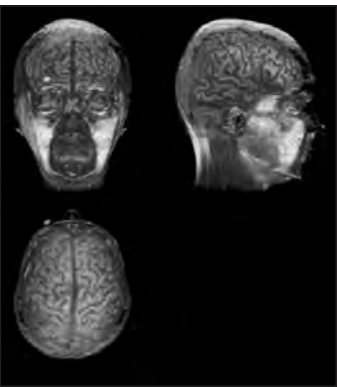
「空腸ティーポット」のもう一つの特徴



M. Volokhova, Dolci Lacrime: Jejunum Teapot, object, porcelain, 2008
M.ヴォロホヴァ、Dolci Lacrime:「空腸のティーポット」、オブジェ、磁器、2008年



M. Volokhova, Dolci Lacrime: Jejunum Teapot, object, porcelain, 2008
M.ヴォロホヴァ、Dolci Lacrime:「空腸のティーポット」、オブジェ、磁器、2008年



Inside the head of M. Volokhova
X-Ray studies of the inner world by the Artist
With support of Leibniz Institute for Neurology, Magdeburg, Germany
M.ヴォロホヴァの頭の中
作家による作家の内的な世界のX-Rayの研究 ライプニッツ神経学研究所(マグデブルグ、ドイツ)のサポート

Maria Volokhova

2007- 2009: Research studies at GEIDAI, Tokyo University of Fine Arts and Music, Japan
2006- 2007: Tokyo University of Fine Arts and Music (GEIDAI), Tokyo, Japan
After master course: Faculty of Arts, „Burg Giebichenstein“ University of Art and Design, Department of Printmaking, Ceramic Design, Halle/ Saale, Germany
2004: Diploma of Art (Painting/ Printmaking) „Burg Giebichenstein“, University of Art and Design, department of Painting, Halle/ Saale, Germany
2002: Ohio University, Athens, USA
2000- 2001: Accademia di belle Arte, Bologna, Italy
1980: Born in Kiev, Ukraine

Selected Exhibitions:

2008: "Collage", Craft2eu, Hamburg
"Grafisch", LIA (Leipzig International Art Program), Baumwollspinnerlei/ Leipzig
"48 Karat", Halle/ Saale
"Labyrinths", Kunstverein Bautzen, Galetie Budisin, Bautzen
2007: "Talents 2007", Munich
"What is bad and what is good", Himmelreich Gallery", Magdeburg
BKV- Prize for Young Applied Arts, Bayerischer "Die Kunst der Tafel", Museum für Kunstgewerbe, Hamburg
2006: "Graduiert", Volkspark Gallery, Halle, Saale
"Artefakte", Institute for Neurology, Magdeburg (solo)
2005: "Graduation works exhibition", Volkspark Gallery, Halle, Saale
2003: "Labyrinths", Art project with „Franckesche Stiftungen“ Halle/ Saale
2002: "Close Up", AOK, Halle/ Saale
"Inside View", Halle/ Saale
"Griffinova", Vaasa, Finland
"Human and Nature", Kirm, Germany
2001: "IN - OUT", Bologna, Italy

短絡：本と腸
マリア・ヴォロホヴァとナディア・サビトリ二人展
Short-circuit: The Book and The Guts
Maria Volokhova and Nadya Savitri Exhibition

@ Gallery Asumu
Fri. 30th January – Sat. 7th February 2009
Free admission

Opening hours: 13:00-19:00
Opening reception: Sat, 31st Jan. 18:00-21:00
Address: 156-0052 Tokyo, Setagaya, Kyodo1-38-20
Access: 7min. walk from Kyodo sta. (Odakyu line)

URL: http://www7b.biglobe.ne.jp/~gallery-asumu/
e-mail: galleryasumu@gmail.com

@ ギャラリー・明日夢
2009年1月30日(金)～2月7日(土)
入場無料

午後1時より午後7時
レセプション: 1月31日(土) 18:00-21:00
〒152-0052 東京都世田谷区経堂 1-38-20
小田急線経堂駅から徒歩7分

Curated by Entomorodi



TOKYO DESIGN FLOW paper 設置店舗

HIDEAWAY
東京都渋谷区神宮前3-20-1-202

SMOKE BAR & GRILL
東京都渋谷区神宮前5-10-1 GYRE4F

cafe STUDIO
東京都渋谷区神宮前 4-31-10 YM Square HARAJUKU 1F

MiLK cafe
東京都渋谷区神宮前6-13-7 1F

LoiteR
東京都渋谷区神宮前6丁目7-3 2F

SunshineStudio
東京都渋谷区神宮前3-25-12 B1F

Chambres D'hoties Hana
東京都港区南青山5-9-12 アイサワビル B1F

EX'REALM
東京都渋谷区神宮前1-12-6 土肥ビル2F

Ucsc the lounge
東京都渋谷区神宮前4-32-13 JPR 神宮前5F

FUJIMAMAS
東京都渋谷区神宮前6-3-2

Smile Junky HB Cafe
東京都渋谷区神宮前1-20-4 AXIA 原宿1F

GORO's DINER
東京都渋谷区神宮前3-41-2 岡本ビル1F

Flaneur CAFE
東京都渋谷区神宮前3-41-3

MuuMuuDiner
東京都港区北青山1-5-15

hacknet
東京都渋谷区恵比寿西1-30-10-1F

SHIBUYA PUBLISHING BOOKSELLERS
東京都渋谷区神山町17-3

head porter
東京都渋谷区神宮前3-21-12-1F

KANGOL
東京都渋谷区神宮前6-3-10

Burton
東京都渋谷区神宮前5-17-4

DEPT
東京都渋谷区神宮前6-25-8 B1F

Blister
東京都渋谷区神宮前4-31-6

K-Swiss
東京都渋谷区神宮前3-18-23

inhabitant
東京都渋谷区神宮前4-31-6 B1F

UNDFTD
東京都渋谷区神宮前4-28-2 ハウステンビル2F

PUMA
渋谷区神宮前 1-13-14 原宿クエスト1 階

Volcom
渋谷区神宮前6-31-15 B1F

Patagonia
東京都渋谷区神宮前6-16-8

AIGLE
東京都渋谷区神宮前6-27-8 京セラビル1F

LAFUMA
東京都渋谷区神宮前6-19 長野ビル1F

SOPH
東京都渋谷区神宮前3-34-10-1F

ELEMENT
東京都渋谷区神宮前4-25-1 ライサ1F

The North Face
渋谷区神宮前6-10-11 原宿ソフィアビル1F

EAST PAK
東京都渋谷区神宮前4-25-1 RISA1F-D

TOKYO HIPSTERS CLUB
東京都渋谷区神宮前6-16-23 THC Bldg

SEXON
東京都渋谷区神泉町22-5

PROTECh
東京都渋谷区神宮前3-6-5

CARNIVAL
東京都渋谷区神宮前6-23-11 2F

SuperDeluxe
東京都港区西麻布3-1-25 B1F

UNIT
東京都渋谷区恵比寿西1-34-17 Za HOUSE BLD.



WE ARE LOOKING FOR...

Situationist

都市に状況を創ることに興味がある人、現代の革命家を探しています。政治や経済よりもスポーツや文化で社会に新しい状況を作ろう。

Newser, Writer, Executive Contributor, Editor.

携帯電話一つで社会を斬る新しいニュース記者を求めています。ウェブ上に投稿するNewser、読者の評価で印刷媒体 (Tokyo design Flow 等) のWriter へ、そして文章の力で人々を動かす事のできるExecutive Contributor、そしてメディアサーフの新しい情報事業の編集を進めるEditor を募集しています。

Web Creator

トウキョウのデザインの流れを伝えるメディアとしての機能を果たすTOKYO DESIGN FLOWのウェブサイトと一緒に作り上げてくれる方を募集しています。アイデアとセンスで既成概念を越えていく「Web Creator」をお待ちしています。

詳しくは info@tokyodesignflow.com へお問い合わせ下さい。

LAST THURSDAY 25.DEC 2008 REPORT

最後の木曜。平和な夜。 People's Christmas at SMOKE-one peaceful night by TOKYO DESIGN FLOW-

12月25日(木)、7回目となった2008年最後の「LAST THURSDAY」はクリスマスパーティ。メイン会場であるSMOKE(東京都渋谷区神宮前 5-10-1 GYRE 4F)には会場を埋めつくすほどの多くの人が集まり、一夜限りの平和な夜を満喫した。店内ではドライアイスによる白煙の演出とCANDOLLS製作のキャンドルの灯りが空間に暖かみをもたらし、そこにDJ、アーティストによる音楽のエッセンスが加わった。テラスでは七面鳥のパーキューにチーズフォンデュとチョコレートフォンデュが振る舞われた。会場のそとではレギュラーイベント「NIGHT PEDAL CRUISING」も開催され、今回は東京の街を彩るイルミネーションを表参道～六本木間で回った。さらにミュージシャンが参加店舗間を巡回する「MUSIC FLOW」も開催。クリスマス、そして2008年最後の木曜日にみんなが集まり楽しく食べ、飲み、話し、笑う。そんな平和な夜が、そこにはあった。



Applaudissement pour les artistes de rue

Text: Melanie Feindt Translation: Rodion



Traveling to a foreign country means exploring new cities and places. In the cities of Europe or the USA, travelers are often welcomed by performers and artists in the streets. Those, who traveled to Paris, might remember the pantomimes in the front of Centre Pompidou, who attract the attention of hundreds of people and make them laugh during their 10 minutes shows. Or you might have seen the human sculptures along Las Ramblas in Barcelona: single or group performers, who look like gold, bronze or ceramic statues. Other world famous spots for fire eaters, jugglers, acrobats and musicians are the Red Square in Moscow, Coventgarden in London, the Ku'damm in Berlin and the Washington Square in New York. The most famous street artist of all times might be Philippe Petit, the French high wire artist who gained fame for

his illegal walk between the Twin Towers in New York City on August 7th, 1974. The great thing about street artists is: they perform on public places, for everyone, for free or for a small tip. They perform to make the audience stop by and be happy for a minute. The quality of the shows is often breathtaking and I haven't seen the same performances twice. The variations of possibilities in the streets are uncountable and there is of course the challenge of the artists to show something unique everytime. I have seen some great performers in Tokyo too. Yoyogi Park is the stage of jugglers, cosplayers, dancers and musicians. Another popular place is the Shinjuku Dori, when it's closed for the traffic in the weekends. But I always think: The street performers should have the chance to

be much more in the main city spots of Tokyo like in other cities of the world. Omotesando, Cat Street, Koen Dori are wonderful spots for performers with much sunlight and the best audience. Many might think street artists would disturb the flow of a busy shopping day, but I think they would even inspire everyone, who's passing by. Imagine how refreshing and cheerful it could be to get entertained by a short show, while you are heading from store to store and carrying your heavy shopping bags. The "Farmer's Market", that takes place at the last weekend of every month in the Gyre Building in Omotesando, is one place, where street artists are welcome. Last year, at the end of November 2008, Cabaret invited the Berlin illustrator, singer and song writer Jim Avignon to do a livepainting for the Farmer's Market event, right in the middle of Omotensando. It was a great activity to attract people to visit the marketplace, with all the organic vegetables and fruits and with more musicians, who played their instruments. It was a wonderful atmosphere and I think this is what every city needs: a peaceful, charming and friendly interaction from-people-to-people.

海外の国を旅行するということは新しい都市と場所を探検することだ。ヨーロッパとアメリカにおいて、旅行者はよくストリートパフォーマーとアーティストから歓迎を受ける。パリに旅行したことがある人は、ボンビドー・センターの前にいるアーティスト、つまりたくさんの観客の注意を惹いて、10分のパフォーマンスの間に皆を笑わせるアーティストを覚えているかもしれない。または、バルセロナのLas Ramblasで「人間彫刻」、つまり金やブロンズ、磁器製の彫刻のように見える1人またはグループのアーティストを見たことがあるかもしれない。世界で他に有名なスポットは、火を食う手品師、ジャグラー、曲芸師とミュージシャンで有名な場所であるモスクワの赤の広場、ロンドンのCoventgarden、ベルリンのKu'DamminとニューヨークのWashington Squareだ。たぶん一番有名なストリートアーティストは、1974年8月7日にニューヨークのツインタワーの間を違法に散歩した、Philippe Petitというフランスの高所綱渡り師だろう。ストリートアーティストの1つの卓越した特徴とは、彼らがパブリックスペースでパフォーマンスを行い、皆のために、タダか小さなチップのためにパフォーマンスを行うことだ。彼らのパフォーマンスは観客を立ち止まらせ、ハッピーにさせるものだ。それらのショーは私をわくわくさせ、そして二度と同じパフォーマンス見たことがない。通りにはたくさんのヴァリエーションがあり、毎回ユニークなショーを見せることはアーティストにとってチャレンジだ。東京でもすごいパフォーマーを見たこと

がある。代々木公園はジャングラー、コスプレイヤー、ダンサーとミュージシャンの場所だ。他に有名な場所は新宿通りの歩行者天国だろう。でも私がいつも考えるのは、ストリートパフォーマーは地球の他の都市のアーティストと同じように、街のもっと中心的な場所にいるべきだということ。表参道、キャットストリート、公園通りには、もっとサンライトがあり、ベストの観客がいるスポットだ。多くの人はストリートアーティストがショッピングに忙しい日の人の流れを邪魔するものだと思うが、アーティストは通る人に逆に刺激を与える。重いバッグを持ちながら店から店へ移動する時に短いショーを見るのは人々気持ちよくさせ、フレッシュな雰囲気を与えることだろう。表参道のGYREビルで毎月の週末に行われる「Farmer's Market」ではストリートアーティストが歓迎される。2008年の11月末、Cabaretはベルリンのイラストレーター、ソングライター、シンガーであるJim Avignonを誘って、Farmer's Marketでライブペインティングを行った。表参道の真ん中で…。マーケットに観客を誘うための素晴らしい演出だった。野菜、フルーツ、楽器を弾くたくさんのミュージシャン。魅力的な雰囲気だって、すべての都市に必要な空気だと思う。つまり、平和で、人々の間に行われる感じがよいふれあいがある。

Melanie Feindt
Cabaret international PR & illustration
showcase
www.cabaret-cabaret.com
CABARET
INTERNATIONAL PR & ILLUSTRATION SHOWCASE

メッセージが生み出す市場と文化 「銀座サローネ」

text: 芝蘭友(起承転結ディレクター)

不安定な時代に人々の心をひとつにするもの。それは「言葉」である。正確に言えば何らかの意図をもった「メッセージ」だ。的確なメッセージはブランドの本質をとらえたコア・アイデンティティに直結している。そこに気づいている方にぜひ一度は訪れてもらいたいサロンがある。経営者のための知的表現戦略サロン「銀座サローネ」である。これは表現戦略を専門とする私が主催者となり、毎月行っているセミナーである。発しているメッセージから、その方がどんなお客様を呼び寄せるかということが瞬時にわかる。「意図しないお客様が来て困っている」というのは、早い話、メッセージが間違っている可能性があるのだ。さて、「銀座サローネ」には大きくわけて三つの特徴がある。一つは、ロコ要素を生み出すメッセージの極意が体得できるということ。私はセミナーの冒頭で「うどんは水が命」というメッセージを掲げている通販ショップの話をしている。ここは水の重要性について述べているのだが、最初は違和感があった。「うどんは出汁が命なのではないか?」と思ったからだ。しかしよく考えてみれば「出

汁が命」というのは食べる側の論理であって、作る側の論理ではない。作る側には美味しいうどんを作るためには、何より「水」が大事なのだ。まさに「うどんは水が命」と言われる所以である。それに気がついた私はこのメッセージにこめられた哲学や思想はもちろんのこと、その会社に共感を覚えた。このようにいろんな事例を紐ときながら、参加者が自社のブランドメッセージを発見していくお手伝いをしていく。そして二つ目の特徴は、非常に感度の高い経営者や著者が集まってくるということである。毎回、ホテルのプライベートルームを貸し切って行うため、顔がささずに安心だという経営者の方も多い。少人数制で行う為、ランチのフルコースを存分に味わいながら縁あって集まった方々が名刺交換をして交遊を深めている。そして最後の特徴は私が作成するオリジナルテキストである。参加者の方々に言わせるとこのテキストはお宝だそうだ。実際セミナーを始める前に自分でこのテキストに取り組んでみた。すると、自分の強みとスタンスを再発見することができたのだ。ロコ要素となる自

分のキーワード(「京都の料亭」)を見つけ出したので、これもまた一つの事例として取り上げお話をさせていただいている。参加者が自分だけの、自社だけのコア・アイデンティティを発見していく様子を見るのがとても楽しい。

■「銀座サローネ」の日程
<基礎編>…2月26日(木)、3月27日(金)
<実践編>…3月28日(土)
メールマガジン(無料)にご登録いただいた方には「銀座サローネ」の先行案内を行っていますので、下記をご参照ください。

■共感・意外性・感動の法則を解き明かす!
芝蘭友のトップストーリーニュース(週1回発行:無料)
<http://www.shirayu.com/letter/index.html>

トモジのきぼんぬコーナー Vol.1

text : ToM. (TOKYO DESIGN FLOW)

ここでは私、トモジが青春時代を振り返り、今だから欲しいアイテム(主にバスケ関連アイテム?)を独断と偏見で掲載していきます。いらねーよ!という声も味方につけ、毎月シンプルに提案していけたらと思います。一回で終わる可能性大!?私の軽い経歴ですが、小2の時にNBAにのめり込み、毎月お小遣いをもらってはバスケ雑誌を買い漁るという少年時代を過ごし、主にバッシュ目当てで購入でした。Jordanに憧れ、Jordan キャンプに参加し、身体的な差をまざまざと見せつけられても尚、自分なら絶対彼に成れると信じて疑わなかった小学生時代。愛読書はもちろん『NBA STORY』!毎回表情の異なるJordanの顔つきに恐怖を覚えながら、破れる程読みました。すいません、今でも綺麗にとってあります。中学に上がり、ゴールの高さに度肝を抜かれ、ゴールリングがエベレスト山頂に見えたのは言うまでもありません。しかし、バスケ愛は途絶えることなく続き、ショーン・ケンプのフリースローのものまねか稲中熟読かという、青すぎてアホ過ぎる青春期を過

ごして参りました。いちよ本来のバスケでも活躍しました。そんなレベゼン前野の自分がレコメンドするのは、我らがJordanの右膝を90's前半から守ってきたサポーター GRID!!!! 黒色のサポーターの上部を折り曲げると何と赤色が……。92年バルセロナオリンピック時はドリームチームのユニホームカラーに合わせ、紺色に。さすがに小学生だった自分はブルズカラーしか入手出来なかった。残念。そこで、お願いしたい! ドリームチームカラーのGRID復刻をお願いしたい! ただ復刻するのはつまらない、現代の身体科学でマッシュアップしたGRIDを希望する。デザインはそのまんま、機能だけを向上させたHYBRID GRIDが欲しい。

ToM.



LAST THURSDAY with CREATIVE SHOPS !

Smile Junky HB Cafe スマイルの所以

「Bridge for Smile」という活動をやっている人がいてね。元パソナ(人材派遣会社)にいた人が起こしたNPOで、家庭内暴力や親が死刑囚だったりして施設に入ってる子供たちの独立支援などをやってて、その卒園者のティーパーティをうちの店でやってくれるんですよ。それで僕もこの活動のお手伝いしようと思ってるんです。僕も中学校を途中でやめて、学校にはほとんど行ってないし、それからずっと叩き上げて働いてきてここまできた。だからなんとかなるんじゃないの?っていうのを子供達に伝えたかったし、斜に構えてやってらんねえよって言っても、道なんか聞かれないよってね。僕も親父が死んで、すぐに銀座の料亭に住み込みで朝から晩まで働いて、毎朝河岸にも行ったり。だから同年代のコ達とはいっさい付き合わなかったね。そいつらは18歳くらいで高校卒業してアルバイトしたり、大学進学のために勉強してたんだろうけど。僕は遮眼帯つけて自分はこの道って。他の人を見ないようにしてがんばらなと、うらやましくなっちゃうから。料亭の仕事は土日休みだったから、当時銀座1丁目

にあったテアトル銀座っていう映画館で、店で毎月4枚もらってたロードショーのチケットをダフ屋になって売ってたね。そして店から毎回メシ代に5000円もらってたから1か月で2万円、それを親に仕送りしてたね。僕は「自分マネジメント」っていうのが大事だと思っててね。若いうちは隣の芝生が青くみえて、すぐ移っちゃうけど、そういうのは違うんだよって。家庭の事情で機会に恵まれなかったヤツがいたとしたら、とにかく自分のやってることを突き詰めると言いたい。きっと見てくれる人がいるし、次に繋がってくるから。そういうことを伝えたい。よく若いコ達に言うんだけど、とにかく月1万貯金して積み立ててご覧って。1年間で12万円貯まって、それをどう使うか。大学を卒業していい会社に行くヤツはそこまでするんな人から投資を受けてる。それが自分にはないとしたら少ない金をやりくりして自分のスキルを上げるために自己投資すればいい。自分のマネジメントができてれば次の道が必ず開けると思ってる。自分の道のエリートになればいい。当時は料理が好きかどうかわからなかつ



たね。料亭というところは甘くない世界だから、ぶっ飛ばされるのも当たり前だし、思い出したくない思い出は封印したりする。これは笑えないよっていう体験はいっぱいあったけど、その時でもなんとか笑って乗り切ってたんだよね。笑っていればなんとかなるってね。いま自分がやってることを好きだって思わないとやってられない

し、楽しくないと思うこともあったけど自己催眠のようにこれは楽しいんだって、この後にいい事が必ず待ってるって自分に言い聞かせてね。これからもいろんな出会いがあると思うけど、TDFとの出会いもおもしろいことにならせていきたいね。



スマイルジャンキー原宿ベースカフェ
渋谷区神宮前1-20-4 AXIA 原宿1F
03-5770-1450
8:00 ~23:00(フードLO22:30,ドリンクLO22:45)
2009年は料理三品+飲み放題の「2009円バック」をやります!

MiLKcafe

読者モデルがスタッフのアットホームなカフェ



原宿系の雑誌で活躍してる読者モデルの男女がスタッフをしています。お客さんとの触れ合いを大事にしたアットホームなカフェです。MiLKcafe 名物モッフルがオススメです。原宿は毎年色々なものがここから生まれてると思います。でも最近はやっと元気ないかなーと思います。ぜひホコテンの復活を5月か8月にミルクカフェのイベントを渋谷AXでやる予定ですので、是非いらしてください。



ミルクカフェ
東京都渋谷区神宮前6-13-7 1F
TEL :03-6658-5862
11:00 ~24:00
定休日:なし



comugiの場合

text: 田中佑資 (TOKYO DESIGN FLOW)

湘南を拠点に、半農半歌手 (&ヨガインストラクター)として活躍している comugi さん。Farmer's Market @ GYRE にもアーティストとして参加してくれている彼女に畑仕事とアーティスト活動について、畑までお邪魔してインタビューしてきました。



ー “半農半歌手”というスタイル、とても素敵ですね。それも湘南。うらやましいです。
音楽も発展させて、かつ衣食住を充実させて、と自分らしいやり方を模索したら、ここにたどり着きました。
ー今の生活を始めて2年と聞きました。以前はどんな生活だったんですか？
音楽活動のかたわら自分がやりたいと思えることに関わろうと、アースデイ東京の事務局スタッフとして働かせてもらったりしていました。
ーアースデイのスタッフも面白そうですね、なぜ辞められて湘南に？
アースデイの仕事はすごく面白かったで

す。でも、ずっと興味を持っていた環境やエコに関する情報がどんどん入ってくる割に、忙しすぎて自分の生活がうまくコントロールできない (=エコじゃない) ことにジレンマを感じるようになって……。私の場合はベースに音楽があったので、それを発展させる形で新しいスタイルをつくろうと、事務局を辞めちゃったんです。ライブって夜が多かったりするんで、仕事が忙しいと、余計不規則になっちゃうんですよね (笑)。

ーヨガのインストラクターもされているんですね？

音楽活動の副産物ともいえる不規則な生活の上に、色々な悩みでストレスを溜めて、体調を崩してしまったことがあったんです。そのとき「なんとなく、カラダが伸びて気持ちいいな」とはじめてのがきっかけです。最初は趣味だったんですが、続けていくうちに「カラダひとつでできて、感じて、



知って、積み重ねていく」という行法哲学としての奥深さを知り、今ではライフワークのひとつです。

ーFarmer's Market とご自身の活動への期待を教えてください。

畑仕事やヨガを通じて、今は「食」に関心があります。その分野で何ができるか分からないけれど、とにかく踏み出してみると、人との出会いに導かれて、先へ先へとつながってゆきます。土に触れて生きることが、当たり前にかっこいい、また、そういう人たちのものを選んで買うことが普通、つていような循環をつくっていける、そんなきっかけづくりの場になれば素敵ですね。

本来、人も自然から生まれたもので、自然の一部である。彼女の音楽が “ナチュラル”なのは、人が本来持っているリズムにそって表現しているからなのかもしれません。最近「TVを観なくなった」という彼女。次回1/31 (土)&2/1 (日)のマーケットでも両日ライブ予定です。お楽しみに!

comugi

湘南在住。美大在学中に音楽活動をはじめ。持続可能な社会、環境問題に関心を持ち、自身も畑を耕しながら、ナチュラルな暮らし・ライフスタイルを大切に活動を続けている。アースセレブレーション2008、フジロックフェスティバル2008ほか出演。www.aofsoul.com/

「公園農」の最前線

text: 萱原正嗣 (カヤハラマサツグ)

都市と農の関係を綴る連載も今回で四回目。
中目黒公園と足立区都市農業公園を訪れ、「公園農」の実態を探った。



1. 中目黒公園

東急東横線中目黒駅から徒歩数分、目黒川のほとりに静かに佇む目黒川公園。ここでは「公園農」の試みが小規模ながら行われている。

中目黒公園は、平成11年(1999年)3

月に目黒区が跡地の一部を取得して、平成14年(2002年)3月末に開園をむかえた公園だ。公園計画段階から目黒区が地域住民と連携し、「地域に必要な公園は何か」を考えながら住民とともに作り上げてきた。現在も目黒区に登録された地域のボランティア団体が公園の維持管理、イベント運営などに携わっている。公園には芝生や木々の緑に満ちているが、これらの芝生や木々もボランティアの人々の手によって守られている。

この公園では、地域の人々の手による運営ということに加えて、「生命再生型」ということをテーマに掲げている。農業や化学肥料を極力使わずに、有機的に植物を育てていくというものだ。公園内では落ち葉で堆肥作りも行われている。

その一角を有機・無農薬の畑が占めている。先日訪れたときには、麦、カボス、カブ、チンゲン菜、大根、じゃがいも、タマネギなどの野菜や果物、穀物が植えられていた。子供たちの名札が掲げられているところもあり、親子連れて栽培に動いむ姿が目につく。採れた野菜は、地域のイベントで出される料理の食材として振る舞われ、自分たちで育てたものを自分たちで調理して食べるという、人間と食との自然な関係をここでは都会にいながら体験することができる。

畑は見たところ広さにして数十㎡程度。地域の食料自給には程遠いが、畑を通じた地域の活性化や食育に、公園農の可能性が見てとれる。

2. 足立区都市農業公園

東武伊勢崎線西新井駅からバスに揺られること二十数分。東京都と埼玉県の間、荒川と新芝川(荒川の支流)に挟まれた場所に都市農業公園はある。

昭和59年(1984年)に開設された当初は、農業試験場的な位置づけだったが、平成6年(1994年)から平成7年(1995年)にかけて行われた荒川スーパー堤防工事に伴い、地域に残っていた畑や田んぼが失われたのに合わせて、「自然と遊ぶ、自然に学ぶ、自然と共に生きる」をテーマ

にリニューアルされることとなり、公園内に畑や田んぼが整備されることになった。畑は約2,000㎡、田んぼは約1,200㎡の広さを誇る。

その後、平成15年(2003年)の農水省の通達により、農薬を使わずに公園を運営することが推奨され、平成16年(2004年)から、公園内の畑、田んぼ、梅林、ブドウ棚の農作業管理がNPO法人「日本有機農業研究会」に委託され、有機・無農薬での栽培が行われている。中目黒公園同様、肥料となる堆肥も公園内の落ち葉で作られている。

先日訪れたときには、大根、キャベツ、アスパラガスなど数種類の野菜が栽培されているのみだったが、季節に合わせてトマト、小松菜、大豆、ネギ、サツマイモ、ジャガイモ、ブドウ、姫リンゴなど様々な野菜や果物が栽培されている。また、田んぼでは「うるち米」(日常的に食べるお米)と「もち米」を毎年作っている。

稲作りや野菜作りの体験教室が毎年数回開催され、餅つき大会や味噌作りの体験教室も年に1回開催される。毎回多くの家族連れて賑わうイベントだ。中でも印象的だったのは餅つき大会の話。餅をもち米から作るのは当然のこと、きな粉を原料の大豆から作っている。スーパーで

売っているパックのきな粉しか知らなかっただけに、新鮮な驚きを受けた。

また、ここで採れた野菜は公園内で販売され、有機・無農薬の安全で新鮮な野菜として地域の人々の人気を博しており、地域の台所としての役割も一部ながら果たしている。

東京都下には1万を超える公園があるという(公園情報センター調べ)。23区を除く市町村部には4,000弱の公園があることから(同センター調べ)、23区内には6,000を超える公園がある計算だ。これだけの数がある公園の一角に畑を作って栽培すれば、かなりの食料を賄うことが出来るのではないだろうか? 東京で食料が自給できるようになる日が訪れるのも近い?



12/20,21 Farmer's Market@GYRE report



創り手(クリエイター)と買い手(生活者)を結ぶFarmer's Market。美味しい食べ物と楽しい音楽、そして打ちとけたコミュニケーションが何よりの元気のもと。クリスマス前開催の12月20日,21日も天候に恵まれ、盛況でした。感謝!



●次回開催概要

日時:1月31日(土)2月1日(日)11時から17時
場所:GYRE 地下一階(東京都渋谷区神宮前5-10-1)
出店:太陽と雨、MEOW、倅、メルカド、fiore soffitta、チームむかごほか。



Cultivate Hard (激しく耕せ)!

～ゲリラ・ガーデニングの動き～

text: 萱原正嗣(カヤハラマサツグ)



街の中には、誰にも見向きもされない「土」がある。道路わきには、ゴミ捨て場と化していたり、草が生え放題だったり、全く手入れされていない多くの花壇がある。この状況に異を唱え、「土」という貴重な資源に目を向けて、「土」を耕そうという動きが起きている。ロンドンで始まった「ゲリラ・ガーデニング」のボランティア活動

だ。有志のメンバーが夜中に集まり花壇を掃除し、苗を植える。一晩で街に彩りが蘇る。「ゲリラ」なる所以は行政に無届けだから。一見すると過激だが、近所への事前の挨拶は欠かさないし、事後も近隣住民やメンバーで花壇の世話を継続したりと、街の人々との一体感と継続性は大切にしている。街並みがきれいになり、住民も大いに喜んでる。今やロンドンだけでなく、欧米やアジア、南米にも活動が広がっていて、日本でも少しずつ活動が始まっている。都会の冷たさを嘆くことは簡単だけれども、都会の「土」に目を向けて、そこを耕し、彩りを添えることもそう難しくはなさそうだ。愛されていない花壇を見つけて何かを感じたら、まずは試しに耕してみてはいかが?

ゲリラ・ガーデニング:
<http://www.guerrillagardening.org/>

Car Life から Pedal Life へのフロウ

変化の兆しは、僕らの足元(乗り物)から。

text: 田中佑資(TOKYO DESIGN FLOW)

不況不況と呼ばれている世の中ですが、昨年末から好調な売り上げを維持している企業があります。最近街に増えてきたと思うもの、ありませんか。そう、自転車メーカーです。「自転車に乗って地球に優しい生活を」なんてことは言いませんが、世の中では確実に、車の代わりに自転車を選ぶ人が増えてきているようです。台湾のジャイアント(GIANT、巨大機械)という自転車メーカーをご存知ですか。世界最大規模の自転車メーカーである彼らの冬のボーナスは、08年12月のニュースによると、過去最高の月給23か月分に達する見込みだったとのこと。自転車が売れに売れて仕方がない。月収の23倍というと、丸二年間働かなくても大丈夫、という金額です(想像が付きませんね)。

一方、自動車はというと、アメリカの自動車メーカービッグ3(GM、フォード、クライスラー)の倒産危機にはじまり、

暗いニュースが続いています。08年11月のビッグ3の対前年比売上は、軒並み30～40%ダウン。日本でも、11月の自動車販売台数は昭和44年以来39年ぶりの低水準に落ち込みました(日本自動車販売協会連合発表)。

同じ“乗り物”業界の中で、過去最高の業績を挙げている企業があれば、倒産の危機に瀕している企業もある。景気は移り変わっていくものだけれど、これを単なる“不況”と片付けるのは、ちょっと違う気がします。駐車場、免許、石油etc.便利だけど使うのに制約の多い自動車に比べ、身体と自転車さえあれば、気持ちの続く限りどこまでも移動のできるのが自転車の魅力。これまでの効率・大量消費のパラダイムを離れて、新しい価値観・システム・ライフスタイルが芽生え始めていると言えるんじゃないでしょうか。Car LifeからPedal Lifeへ。変化の兆しは、僕らの足元(乗り物)から。

新しい働き方と自転車の関係

回り回って自分に帰ってくる幸せ。まずは、
空き缶で自転車のパーキングスタンドを。自転車で幸せを売る人をサポート。

text: 三輪ノブヨシ

世の中、不景氣らしい。お金を稼ぐことだけを目的にしてきた生活は、もうみんなダメだってわり始めている。

そうだ、小さくても自分のやりたいことをやろう! そんな人が、ぐーんと増えてきた。当たり前だけど、人間らしく働きたいと思う人が。でも、なにかから始めたらいいんだろう? お金をかけずに何かを始めるには? ヤフオク? 顔の見えない取引は結局つまらない。何かを売るにもお店を出すのも金がかかる。

自転車で商売を始めよう! 吉祥寺あたりでは随分前から、スイーツを売る女の子が人気だ。自分で焼いたケーキを自転車に積んで街に出ると、いろんな人から声がかかる。すぐ売り切れて一日に何度か家に取りに戻ることも。OLやショップの人が、今日は何焼いたの? って箱の中を嬉しそうに覗いている。小さな幸せを運ぶ少女といった感じだ。

屋台でコーヒーショップを始めた女性。自動車のカフェから自転車に乗り換えて、ブラウニーを売る30代の男性。どちらもコ

ミュニケーションを楽しみながら、楽しんで売っている。人気だ。第一、自転車で売ってる人は、いい人にしか見えない。がんばってる感もあるし、謙虚さにもじみ出ているし、親しみも感じてしまう。売りに来るまでの様子が想像できて、またまたいいのだ。

ヨーロッパの街角では、いろいろなものを売る人たちがいて、とても楽しい。時間帯によって人の流れも変わるし、売れるものも変わるから、自転車のお店は自由に移動して行く。こんなの日本にもあれば楽しいなあ。と思ったものだ。

雇用を拡大するには、今までと同じではダメだ。政府も雇用を作り出すというなら、路上で商売を始めるのをいちいち取り締まるのは止めるべきだ。許可がないとやらせないというのはどういうことか? 国民は警察にそんな取り締まりをしてほしいとは思っていない。警察は弱いものいじめはやめて、オレオレ詐欺をまず撲滅してほしいものだ。みんな自転車で自分のお店をだそう! そんなみなさんをサポートします。

もうひとつ、ホームレスが集めるアルミ缶

で自転車のパーキングスタンドを作る計画はまだ始まったばかり。ホームレス救済のためなんて言うのではなくて、ちゃんとリサイクルとして目に見える形で回りながら役立っているのが見えて、みんなが幸せになればいいと思う。結局はちゃんと自分に戻ってくる一つのモデルとして。

いろんな人が自分のサイズで仕事をする。どこかで繋がっていると実感できる社会になれば、もっと仕事もコミュニケーションも楽しくなるだろう。自転車にはそんな力がある。パーキングスタンドと同時に、コミュニケーションをとりながらつながり合っていることを実感できる自転車、そんな商売用の自転車、貨物用の自転車をどんどん普及させたいなあ。



知らない事が多すぎる。 I missed the flow

まるで科学反応を起こすかの様に。

text: 松岡秀典(HIDDEN CHAMPION Magazine)

「知らなかった」という事は無意識のうちに避けてきたからなのか、それとも純粹に知るきっかけが無かったのか。ただ、知らないままでも今まで生きてこれたから、自分にとっては本当はどうでも良い事だったのかも知れない。でも、そんな「知らなかった事」に触れたとき、少なからず、その「知らなかった事」に夢中な人を見ると、なぜそんなに夢中なのかを知りたくなる。そして少し興味を持ちさえすれば、そこから色々な刺激を受け、今迄の自分の中に無かった「匂い」といとか「風景」が見えてくる。それはとても新鮮な事で、僕はそういう体験がすごく好きだ。何かに夢中な人には得体の知れないエネルギーがある。

自分の中に既にあった好きな事と、新しく出会った好きな事。それらに順位は無い。比べようも無い。音楽でもスポーツでも、色々なジャンルや種類があるが、その

どれにもそれぞれの魅力があると思う。僕は新しく知った事を人に知らせたくなる。それらはすべて楽しいと感じた事だからだ。だから僕は「HIDDEN CHAMPION」というフリーマガジンを始めた。

僕はその仕事柄、ファッションや音楽、アート、スケートボードなどのストリートカルチャーに触れることが少しだけ多い。ただ、そういったカルチャーはそれぞれのシーンの中で更に細分化され、意外と小さなコミュニティになっている事が多い様に感じる。メディアが取り上げない限りは「知らないまま」という事が大半である。また、本屋やCDショップに行く人も少なくなっているらしく、新人のアーティストを知る機会も無ければ、エキシビションやスケートボード、BMXの大会が行われている事も知らないまま時間だけが過ぎて行く。しかし、それらの出来事にもちょっとし

た「きっかけ」があるだけで面白い流れになってくる。まるで科学反応を起こすかの様に。

そして今年も面白そうなイベントが開催される。2月10日に行われるWEEKEND WARRIORZというCLUBイベントで、新進気鋭のHOUSEミュージックのイベントだ。ただ、オーガナイザーがPIST好きという事から、PISTショップの協力を経て、当日イベントが行われる代官山のUNITというCLUBの店内にPISTバイクが展示されるそう。HOUSEファンとPIST乗りが瞬間を共有する。ちょっと楽しそう。こういった動きはやはり周りに放っておかない。1月末に創刊される自転車雑誌「PEDAL SPEED」も興味を持ってくれたみたいだし、このフリーペーパーを発行しているTOKYO DESIGN FLOWが主催する「NIGHT PEDAL CRUISING」も協力してくれる事になった様だ。もちろん「HIDDEN CHAMPION」も応援している。1つのアイデアから色んな人達やメディアが立体的に絡み合ってきた。そうして少しずつシーンが出来上がって浸透していく。

世の中、不況だ不況だと耳障りな程うるさいが、ちょっとした「興味」を持って「行動」さえすれば楽しい事は無限にある。しかも、そういう楽しいところには良い流れが溢れている。だから自分も良い流れを



掴める。ただ、最初にほんの少し必要なのは、その流れを知るための「きっかけ」だと思う。

"WEEKEND WARRIORZ"
2009.02.10 (TUE) *Before Holiday
open/start: 23:30
adv. 3000yen, w.flyer 3500yen, door 4000yen
@代官山UNIT
http://www.unit-tokyo.com
http://www.myspace.com/hitompipro

[UNIT]-Weekend Warriorz 03-LIVE : DAMIAN SCHWARTZ (NET28/MUPA, CMYKmusik, OSLO/Madrid)
DJ : RYO TSUTSUI (WEEKEND WARRIORZ/EDEN)/AOSAWA (世田谷レーシング)/SHINGO420 (SEXON SUPER PEACE)
Visual : RealRockDesign
Sounds PA : Philfonic
Decoration : Tsuyoshi Ikegami (YES!pr)

PIST Exhibition : SEXON SUPER PEACE [SALOON]-FREAUQUE-DJ : DJ SON (BMM)/YUKI+MIZO (FREAUQUE)/HIDEYUKI OZAKI (MAGRITTE)/GORO (PRIZE)/ANIMA/STEM)/7 TAKAHASHI (VACATION)

スペシャルディスカウント!!
読者の皆様を特別ディスカウント価格にてご優待します!こちらのQRコードをスキャンしていただき、お名前を記入してメールをお送りいただいた方には、特別ディスカウントクーポン(当日券: 4,000円が50%OFFの2,000円になります)をお送りさせていただきます。



*ディスカウントクーポンは会場入口にて受付スタッフまでご提示ください。
*尚、本イベントは20歳未満の方のご入場は出来ません。予めご了承ください。
*会場入口にてID CHECKがございますので、写真付き身分証明書必ずご持参ください。

チャリのフロウ 第3回 放置自転車の行く末追跡企画。流れはどこへ。

text: 清田直博(Media Surf Communications inc.)

先月から引き続き、放置自転車の行き先を探る。今回は港での取材を行うべく輸出業者に電話をかけまくる。中古自転車の回収からコンテナ詰め作業、輸出現場まで写真で紹介するO畑商事のブログを見て電話、が、輸出は全て大阪らしく取材断念。その後も数社輸出業者をあたるが、けんもほろろ。こういう時は他人の脳みそを借りるにかぎる。すると、放置自転車の引き取りから整備、販売までを手がけているお店を発見。このお店ならいろいろ教えてくれるに違いない、とさっそくコンタクトして取材のアポを取り付ける。

今回おじゃましたのは自治体から引

き取った放置自転車を修理し、5年弱で10,000台の中古自転車を販売した実績を持つ、相模原の中古自転車屋さん『再来(さいくる)』。店長の藤井さんはパワフルなおじさんで、バブルの時期は自転車店経営の傍ら実業団チームを率い、週末は各地で行われるレースを転戦していたが、バブル崩壊とともに新車が売れなくなり、中古自転車販売を手がけるように。今では「日本から全ての放置自転車をなくす」という壮大な夢を掲げ、日々自転車の引き取りと整備、販売をしている。藤井さんの話を聞いていると、放置自転車の大まかな流れがつかめてきたぞ。

以前、藤井さんは大田区で行われる放置自転車の入札に参加していた。年間約25,000台の放置自転車が入札に掛けられ、その中から400台くらいを毎月仕入れ、整備して自社販売や他のリサイクルショップへ卸し、また国内で中古販売できないような程度の悪いものは輸出業者にも卸していた。しかしその輸出業者が区の入札現場に直接顔を出すように。自社で整備を行わず、コンテナに積んで輸出するだけの業者が続々と入札に参加するようになり落札価格が高騰、藤井さんのような中古自転車業者はやっていけなくなってしまった。現在都内で入札に参加している業者のほとんどは輸出業者らしい。自治体は国内でのリサイクルという目的を持たず、高く売ればOKというスタンスが多いとのこと。また区によっては入札販売ではなく処分委託というかたちで業者に金を支払って引き取ってもらう。業者はお金をもらって自転車を引き取り、使えないものは廃棄し、売れるものはそのま

まコンテナに詰め込んで輸出するだけ。素人が聞いただけでもけっこうおいしい商売。これじゃなかなか取材に応じたくないわけだ。

現在、藤井さんは東京都からは撤退し、主に横浜市から放置自転車を引き取り販売している。横浜市では年間約10万台の放置自転車が発生、うち4万台を入札に掛け、民間で放置自転車の再利用を行っている。1台あたりの落札価格の平均1,000円台。それを1台ずつ整備し、5,000円から10,000円の価格帯で販売する。毎月の販売台数は約200台。ちなみに数軒先の新車販売店では月2台しか売れないそう。

ところで輸出される自転車の行き先はというと、2007年の財団法人自転車産業振興協会の資料によれば、輸出される自転車の台数は2,096,000台で、仕向地はカンボジア、ベトナム、中国などのアジアの国々と、ガーナ、タンザニアなどアフリカの国々で全輸出の99.9%を占める。平均

単価は1400円くらいで、輸出されるのはほとんど中古自転車。一方輸入台数は9,276,000台で、うち96%が中国からの輸入。中国から輸入した安い自転車が日本中で出回り、捨てられ、その一部が再び中古として中国を含めたアジアアフリカの国々に輸出される流れ。

なんて無駄なことをやっているのか、この国は。やっぱりこれからはレンタサイクルの時代ですかね。



*取材協力: 中古自転車店 再来(さいくる)
〒228-0821 神奈川県相模原市相模台7丁目34-10
電話/FAX 050-1099-1411 年中無休 10:00～18:00
http://cycle-fiets.seesaa.net/

ロックはそれを我慢出来ない!

text：大貫憲章／KENSHO ONUKI (KENROCKS)

ロックン・ロールはその誕生の時から、ある意味嫌われ者だった。つまり、その音楽は黒人音楽をルーツに、ちょっぴり白人音楽の要素を加えたものだったので、その音楽が生まれた今から半世紀以上も昔の世界では、異端児であり、日陰者であった。自由の国アメリカでもまだ人種差別が色濃く残っていた時代だ。実際のところ、黒人がその存在を保証されるようになったのは、ビートルズが世界中を熱狂させていた頃のこと。つまり、そんなに大昔ではなく、60年代の半ばになってからだ。

ロックン・ロールの元祖は、諸説いろいろだけど、エルヴィス・プレスリーの登場で一躍世界中の人気の的となったのは確かだ。でも、そのエルヴィスが自らの音楽の手本にしたものと言えば、それは黒人音楽が基礎にある。同じ時代に活動した者でも、白人にはテレビや舞台などの公のステージが与えられたが、黒人たちにはそれはなかった。リトル・リチャードがチャック・ベリーの自伝的映画『ヘイル・ヘイル・ロックン・ロール』の中でインタビューにこう答えていた。「オレたち黒人は自分の歌が他人に歌われてヒットしても、それを眺めてるしかなかった。オレたちにはテレビは縁のないものだったんだよ」。

そういう意味で、ロックン・ロールは生まれながらの鬼子であり、公序良俗とは相容れないものだったのかもしれない。だからこそ、世界中のテーンエイジャーから喝采をもって迎えられたとも言える。つまり、彼らティーンたちは、その多感さゆえに、大人のルールや親や学校といった権威から、少しでも遠くに逃げたかったのだ。音楽に限らず、そういった若者の葛藤や世間との軋轢をテーマにした芸術作品は無数にある。それは人種や文化を超えて世界中の若者が抱える共通の問題だったのだ。

そして、ロックン・ロールはやがてより大きなカウンター・カルチャーとして認められ成熟し、ロックという包括的な意識の塊のような存在になり、時代と歩調を合わせるように今日まで歩んで来たのだ。それは、すでに単なる十代の悩みの受け皿というのではなく、時代そのものを映し出す鏡のようなものとして存在し、時としてエンターテインメントとして以上の潜在的機能を発し、我々民衆に警鐘を鳴らし、また啓蒙的な意識を芽生えさせもするのだ。

日本にも「歌は世につれ、世は歌につれ」なる言葉があるように、音楽それも大衆音楽はそこに生きる人間の血肉の拍動を実感させるものであるというのは、自明の理だろう。そして、思うに、ロックがその本来的な意味でのパワーを発揮するのはエンタメの部分ではなく、今まで指摘したように、その音楽の生まれる背景となる時代や世相に深く関わっている部分、すなわち、それこそ、時代の叫びであり、街の声というものを反映した部分であると言える。

その事実をぼくらはこれまでに幾度となく見聞きし体験して来た。60年代はすべてにおいて今日の礎となるものが生まれた時代だ。戦後の体制が世界的に確立され、それぞれが繁栄と苦悩を抱えて過ごした時代。そんな時代であればこそ、エレキ・ブームが起り、ビートルズやボブ・ディランが世界中の若者を虜にしたのだ。ビートルズは「A Hard Days Night」を突っ走り、ディランは「Like A Rolling Stone」を問いかけた。彼らはまさに時代のスピードと同じ早さでぼくらに歌いかけていたのだ。それは、ポップ・ビジネスの上でも大きな変革をもたらしたが、それ以上にぼくらにその時代に生きることの喜怒哀楽を教えてくれた。

そして、それ以後も時代の転換期になるとロックはその事実を音楽で明瞭に示し

た。ウッドストックと反戦、パンクと不況、グランジと倦怠、と単純に決めつけるのはいささか短絡的かもしれないけど、大筋ではそんなに的外れではあるまい。その意味ではロックに、いや、大衆音楽全般にとって時代に暗い影がさしている時の方が対象に照準を合わせるのが易しいのかもしれない。

そして、今日を考えると、世界は未曾有の混沌の中にあり、政治も経済もそれらを包括する社会そのものが不透明で見通しも曖昧模糊としている。倫理観とか生活感とかすらも希薄でいかにも危ういと言わざるを得ない。そんな時代を歌うにふさわしいアーティストや音楽が今だけいるのか、そこところが何とも不明瞭だ。少なくとも既存のバンドやミュージシャンの中に、そういう動きを見いだすのは難しい。強いて挙げればラテン系のワールド・ミュージックというくくりで紹介されるものの中に「混血種」として生まれ落ちたいわゆる mestizo とかが話題の中心かとも思える。アンチ・グローバリゼーションを標榜する彼らの音楽は、ロックにまた新たな血脈を与えることになるのだろう。MANU CHAO やマドンナが惚れ込んだことで知られる GOGOL BORDELLO などはその氷山の一角だ。

時代に取り込まれず、抗い続けることこそが自己のアイデンティティーを確保するもっとも有効で簡単な方法だ。それをロックはずっと体現して来たのだから。故ボブ・マーリーも言っている。「Get Up Stand Up Don't Give Up The Fight」だって。ロックの自由な魂は拘束されることに我慢が出来ないのだ。NEVER DIE!



Highway 61 Revisited/Bob Dylan



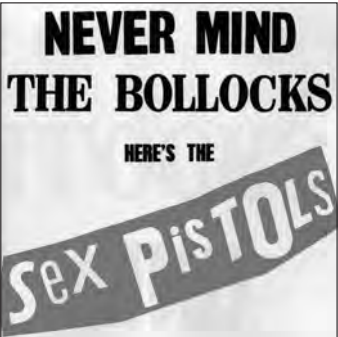
The Clash/The Clash



A hard Day's Night/The Beatles



Clandestino/Manu Chao



Never Mind the Bollocks Here's the Sex Pistols/The Sex Pistols

大貫憲章

51年東京生まれ。立教大卒。音楽評論家、DJ、イベントプロデューサー。71年大学在学時から音楽評論家としてキャリアをスタート、当時無名のQUEENを日本にいち早く紹介したり、SEX PISTOLS、THE CLASHなどのロンドン・パンクを現地取材するなど、時代の節目節目でのキーを握る。雑誌「an an」でのエディターなどを経てNHK FM「若いこだま」でラジオDJ活動も開始。79年、日本初のUK専門チャート番組となるラジオ日本「全英TOP20」を、さらに同局の「サウンドプロセッサー」、JFN「ロックディメンション」、TVK「ミートマ・ワールド」などを経て現在JFN12局OA中「ロンナイ」で選曲、構成、パーソナリティーの三役をこなす。主な専門分野は60～90年代のイギリスのロック。
www.kenrocks.net

Music Shocking!!! Vol.1

今月からTDFと繋がりのあるDJやアーティストの音のルーツを探り、毎回テレフォンショッキング形式で周りのクリエイターを紹介してもらい音の輪を広げていくMusic Shocking!!! 第一回は11月12月とTDFにて大貫憲章さんと共に会場をロックしてくれたアルマーニラウンジセクター DJ MILLAさんの音にまつわる話を語ってもらった。

<新しい何か>

音楽を意識するようになったのはお母さんが好きだった松任谷由実さんからだったかな。中学生からは洋楽ROCKを聞くようになり、それからHIPHOP、REGGAEにはまり、いわゆるダンスミュージックと呼ばれるものに出会ったのは19オウくらい。今はそのいわゆるダンスミュージックをクラブやなんかで流してるんだけど、ダンスミュージックの中にもHOUSE、TECHNO、ELECTRO、TRANCE等々、いろいろなジャンルがあってミラは最近TECHNOっぱいのがスキ。楽曲制作の方は昔から聞いてきた色々なジャンルの要素を取り入れてジャンルレスな感じ。今の日本の音楽シーンについて作り手たちがつまらないって言っちゃってるから、これからの若い世代で変えていかないといけないと思う。その点でTOKYO DESIGN FLOWのみんなも若い世代で新しい何かを作り上げようとしているMUSIC、FASHION、ART...、色々な人の人生を素敵にできるような新しい何かを作りたいと思う。



DJ MILLA

自身の音楽制作の開始に伴いDJ活動を本格的に始動し、都内各所のイベントに積極的に参加している。現在では都内ARMANI/PRIVEの楽曲セクター&アドバイザーとして所属。また、ガールズ3人からなるユニット「Rollupjeans!」のプロデューサーでもある。彼女のDJセットはROCK/POP/ELECTRO/MINIMAL/TECHと幅広い。その幅広い選曲で、状況や場面に応じたセレクトで確実にフロアをロックしてくれる事は間違いない。MILLAから発せられる独特のダンスビートをフロアでダイレクトに感じて欲しい。

>>> next issue
TOKYO DESIGN FLOW paper N8

OBAMA Change with us.



オバマの提示するものは何か？
Green Jobsとは？
民主主義と資本主義の未来は？

1月20日に行われたオバマ大統領の就任式に、TOKYO DESIGN FLOWクルーが突撃取材。

現地の若者やクリエイティブ・クラスへのインタビュー、日本におけるトークセッションなどを通じて、いまアメリカで何が起きているのか、そして世界の未来を探る。



*1月20日(火) WE-TV オバマチャンネルスタート! www.we-obama.com
原宿→ワシントンDC。オバマ大統領就任式突撃取材へ向かうmat。

>>> 29 Jan. 2009
LAST THURSDAY
Hard Days Rock Night



No one knows what's over there , but ,I know exactly what I want.
If that makes me a bitch, okay.

©LIGHTNINGVAULT

www.lightningvault.jp

Run Hard Play Hard Go Hard

皆さん、明けました。僕らの時代が明けました。トモジです。
新年と共にスタートを切ったTokyo Design Flow!!!
世間がブレーキかけても、こちらブレイン!!
止まることなく走り続け、本質から目を逸らすことなく捉え続け、
曲げることなく貫いていく。一人ではなく、みなと共に創りあげていく。
そして明日なき明日を切り開いていく。

TDF ToM.

29 Jan. 2009

MONTHLY EVENT

TOKYO DESIGN FLOW

LAST THURSDAY

ART, FASHION, FOOD, TRAVEL, SPORTS, MUSIC and DESIGN.

www.tokyodesignflow.com

